三河小中学校長会　研修会③

令和５年 11 月 10 日（金）　竜美丘会館

「髙本流　思いのままに」

豊川市教育委員会教育長
髙　本　訓　久　　氏

１　はじめに

・笑いが日々の指導の活力に
・小咄や教育時事ネタを交えた落語『猫と金魚』の披露
　→会場には笑いの渦が生まれ、笑いに溺れて誰もが濡れねずみに

２　子どもたちの「感じる心」を育てたい

(1) 子どもたちの実態
・スマホなどＳＮＳの利用増による人間関係づくり、コミュニケーションが希薄になっている。
・子どもたちの「感じ取る力」が弱くなっている現状が見られる。

(2) 金子みすゞさんの作品で「感じる心」を
明治時代の作品で、決して裕福な生活のできる時代ではないにも関わらず、どの作品も温かく、心を打たれるものであり、世界中で親しまれている。

ア『私と小鳥と鈴と』
・私、小鳥、鈴は、みんな同じで優れている。
・「鈴と、小鳥と、それから私」から、あなたがいて私がいる。あなたと私、どちらも大切と考えたい。
・あなたががんばれるのは、誰かがいるからであり、「自分」という存在は自分以外の誰かがいて、初めて成り立っている。

イ『星とたんぽぽ』
・「見えぬけれどもあるんだよ」から、眼に見えるものが全てではないと感じ取ろう。
・眼に見えないものの中に、大切なものがある。（空気、命、思いやりなど）
・眼に見えない大切なものを見ることのできる心の眼をもちたい。
「妬み、怒り、憎しみ」は形に表れやすく、醜い姿、「思いやり、優しさ、感謝」は形に表れにくく、美しい姿である。「妬み、怒り、憎しみ」を抱いたとき、ちょっと立ち止まる心をもち、眼に見えない大切なものに気付けるようにしたい。

(3)　「三つの幸せ」
・ある著書の紹介

路線バスに乗車した時の出来事。車椅子の方が乗車する際、カップルの女性が運転手を手伝い、下車するまで車椅子の介助にあたった。労いの言葉を女性にかけると、「慣れてい

るだけです」と答え、男性に「ほめられちゃった」とはにかみながら話していた。
　すてきなカップルであると感じつつ、二人が下車する際、男性が足を引きずり、女性が介助している姿を見て、「慣れているだけ」の言葉の意味に初めて気付き、二人が幸せな理由が分かった、というエピソードから「三つの幸せ」というものを考えた。

ア　「してもらう幸せ」
　オムツを替えてもらう、抱っこしてもらう
イ　自分で「できる幸せ」
　字が書けるようになった、一人で自転車に乗れるようになった
ウ　人に「してあげる幸せ」
　誰かが困っていたら助ける、友達が独りでいたら声をかけて遊ぶ

・誰かに何かをしてあげれば、その人は「してもらう幸せ」を感じ、その喜ぶ様子を見ることで、自分自身も幸せになる。
・教職員も、仕事という領域を超えて子どもたちのためにがんばったとき、初めて思いが伝わり、子どもたちの心も育っていく。

３　管理職としての「危機管理」

・自然災害以外の危機は、招くのも「人」、救うのも「人」である。
・リーダーの役目の一つは、「次のリーダーを育てる」ことである。
・組織のレベルは、管理職のリーダーシップのレベル以上にはならない。
　…子どもたちのレベルは、教職員のレベル以上にはならない。
・「判断は頭　決断は肝」で行う。
　…判断するには判断基準があり、教頭には十分な情報収集をさせる。
　　決断には基準がない。集めた情報を基に、守るものを絞って決める。

【次々繰り出される小噺】

【笑顔あふれる研修会に】